



日本学会議への期待（私見）

2021年2月27日

日本電信電話株式会社（NTT）
取締役会長
篠原 弘道

- 日本のトップクラスの研究者の集まり
- 第一部会～第三部会まで、あらゆる分野の知が集まっている（海外にも例をみない）。
 - ✓ 「総合知」を生み出せる坩堝
 - ✓ Cf. 学会は、分野毎の知の集合体
- ◆ 部会間の連携が機動的に深いレベルで行われているのか不明。
 - ✓ 昨年発刊の「未来からの問い」は？
 - ✓ 「様々な分野の研究者が集う会議」という特徴が十分に活かされていないのではないか。
- ◆ 情報発信（の効果）が不十分ではないか。

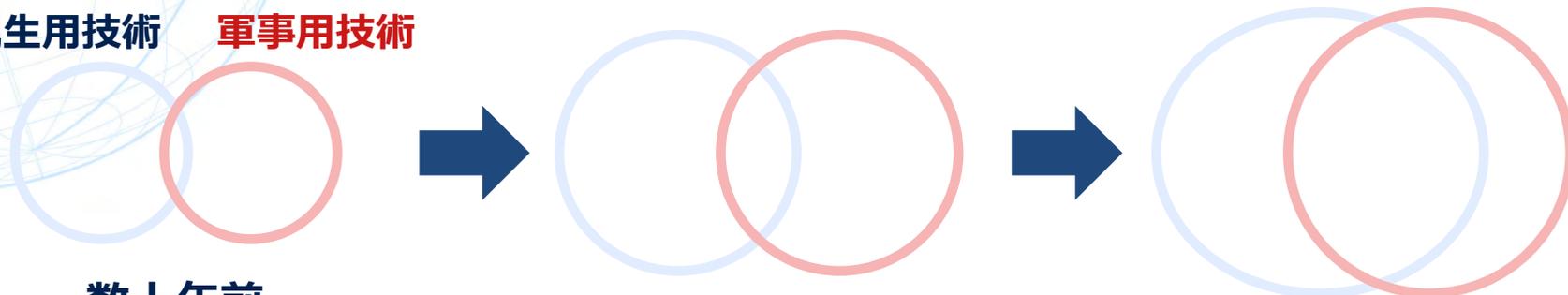
- 技術だけでは100%解決できない課題が増えている。
 - Ex. 環境問題：パリ目標の達成など
 - ⇒ 生活様式の変更、行動変容が不可欠
- 個人情報情報の活用に関し、多くの国民が漠然とした不安感を持っていて、データ活用が進まない。
 - ⇒ 国民の理解をどのように得るか？
- イノベーションには、光だけでなく影の存在も。
- 安全を基礎とした“安心”の定義。満点主義からの脱却。
- 「人新生」→ 未来の社会像が求められている。
- Well-being の追求。 集団のWell-beingとは？
- これらの実現には、国民の幅広い共感・合意が必要
- ◆ ネットの時代：意見の二極化、対立が顕著。社会分断
 - ⇒ 合意メカニズムが働きにくくなっている。

- ◆ 前頁で掲げたような課題の解決には、人文社会科学と自然科学との「総合知」が不可欠。
- 人間や社会が抱える課題の解決、未来像の提示に向け、
 - 「細分化された学問分野の集合体」ではなく、「多様な学問分野の融合体」としての活動を期待。
 - 即ち、第一、第二、第三の部会を跨る活動を強化し、総合知を生み出す。
 - 国民に向けた「分かり易い情報発信」と「社会との対話」の強化。
 - 「同意」ではなく、社会的「合意」を目指すメカニズムの構築。

- 多くの技術が民生、軍事のどちらにも使える。その傾向は、年々拡大。

民生用技術

軍用技術



数十年前

現在

- 当初軍用開発され、現在では民間で広く活用されているものは多くある。
 - インターネット、GPS、ロボットなど
- 例えば、サイバーセキュリティ、暗号技術、AI、ドローン等の技術に民生／軍事の線引きは出来るのか？
- デュアルユースを否定するのではなく、有益な技術を有効に管理するための枠組みやルール作りに取り組むべき。

Ex. 人間中心のAI社会原則



ご清聴ありがとうございました。